

花道★卒業★感謝



先週火曜日、卒業生を送り出しました。素晴らしい卒業式でした。何よりも先輩への餞となる在校生の歌声が体育館の隅々まで響き渡り、凛とした雰囲気醸し出しておりました。卒業式セレモニー、同窓会入会式と続いた花道。

多くの保護者、先輩、後輩からの祝福を浴びながら卒業生はゆっくりと歩みを進めました。当日発行のPTAだより「だいやもんど」にはHR担任からのあついメッセージが掲載されています。1、2学年保護者の皆様も是非ご一読下さい。



明日から平成28年度高校入試です。さあ、新2、3年生、充実の1週間を!

★ 卒業式 ★

自分の可能性を信じ 新たなページに“刻め”ダイヤモンドの軌跡 3/1 (火)

式 辞

【卒業式要覧より】

残波の青きキャンパスに舞う白き波の花。座喜味城の石垣には遙かなる天からの目映き恵み、緑濃き松林を力強くも優しく吹き抜ける南風。旅立ちの弥生3月。沖縄県立読谷高等学校第66期卒業の皆さん、ご卒業おめでとうございます。そして保護者の皆様、本校を代表して心よりお祝いを申し上げます。また、ご臨席を賜りましたご来賓の皆様には深く感謝申し上げます。

第66期生の皆さん、3年間はいかがでしたか。平成25年4月に入学、新校舎建築中で、グラウンドのプレハブ2階が皆さんのHR教室でした。その年の第29回体育祭は『無数の汗 無償の思い みせてやれ 無限の読高魂!』のもとに読谷村陸上競技場で開催されました。先輩の背中を必死で追いかけて、1学年は大縄飛びで競い合いました。2年、新築校舎での1学期スタートとなりました。中堅学年として後輩を迎え入れ、2学期には本格的に先輩からバトンを受け継ぎ、様々な行事の舵を取りました。中でも第5回舞台祭『みんなで咲かそう笑顔の花 踊りな祭・笑いな祭・舞台祭』では十分な準備期間が取れない中、先輩を支え、後輩をリードしながら舞台を盛り上げました。

3年、特に思い出深き学年となったのではないのでしょうか。また、同窓会から本校の新築と創立65周年を記念に校章の贈呈があり、校門から正面校舎4階壁面に設置して頂きました。先輩方から「日々、読高生として志を高く高校生活を送って欲しい」との願いが込められており、読高生としての誇りを高くしました。この心意気をもって、第18回学園祭『青春輝石(アオハルダイヤモンド)〜見せよ!読高プライド〜』に臨み、後輩をリードしながら最上級生としての存在感を発揮しました。ただ、この3年間を振り返ると辛く厳しいこともあったのではないのでしょうか。しかし、その高校生活の一場面一場面がしっかりと結びつき、卒業という舞台に、今、立っています。

平成27年度は激動の1年であったと歴史に刻まれることになると思われます。混沌としたユーロ情勢、混迷を極める中東情勢、中国経済等への大きな不安、日本国債国内初のマイナス金利……。言うならば「グローバル化の歪み」であり、この状況はしばらく続く予想されます。ですから、様々な厳しい状況の下において飛び交う情報の中から更なる真実を見極める努力をして頂きたい。そのことが「己の人生」の糧を生み出すはずです。

司馬遼太郎の小説『龍馬がゆく』で「人生は一場の芝居だというのが、芝居と違う点が大きくある。芝居の役者の場合は、舞台は他人が作ってくれる。なまの人生は、自分で自分のがらに合う舞台をこつこつ作って、そのうえで芝居をするのだ。他人が舞台を作ってくれやせぬ」と龍馬は言います。

本校の校章は胸にペンを抱き、翼を広げ、「真実の風」を受け、希望に満ちた未来を求める読高生の象徴でもあると思います。龍馬はこうも言います。「人の世に失敗ちゅうことは、ありやせんぞ。」第66期生、どうか恐れずに、「感謝の心」を以てその羽を伸びやかにして舞って頂きたい。

本日ご臨席を賜り、卒業生の前途を祝福して下さっている皆様、また、ご列席いただいている保護者ご家族の皆様に、重ねて、篤くお礼を申し上げ、式辞といたします。

★今後の主な行事日程★

H28年	3月	8日	(火)	早朝講座・1・2・3・L
		9日	(水)	<入検・作業>
		11日	(金)	<入検・作業>
		12日	(土)	数学検定試験
		14日	(月)	早朝講座・3・4・5・6 <45分授業>



<午後：入検準備作業>

<午後：入検作業>